

オプション教材キンモクセイ 読解マラソン集



読解問題のもとになる長文です。読解問題をやる人は、時間のあるときに読んでおきましょう。

読解問題は、清書の週で時間があまったときにやってください。時間がないときは、やらなくていいです。

読解問題は、選択式問題の解答のコツをつかむために行います。適当に全問やるのではなく、一問か二問でもいいですから確実に正解にするつもりでやってください。

読解問題の答えを作文用紙に書く場合は、問題の番号と答えがわかるように書いてください。書き方は自由です。読解問題の用紙は返却しませんが、選んだ番号と正解は「山のたより」に表示されます。

読解マラソンの問題のページから答えを送信すると、その場で採点結果が表示されます。（この場合、作文用紙に答えを書く必要はありません）

▼作文用紙に答えを書く場合（書き方は自由です。
作文用紙の余白などに書いても結構です）

▼読解マラソンのページから答えを送信する場合（この場合作文用紙に答えを書く必要はありません）
<http://www.mori7.net/marason/ki.php>

1.

3.

5.

5.

なんでもコンパクトがもてはやされるこのごろですが、犬の世界も例外ではありません。品種改良の結果、たくさん犬が小型化され、今や世界中で飼われています。つまり、コンパクトな犬はそのほとんどが人工的に作り出されたものなのです。

しかし、天然の小型犬もいます。チワワです。餌代もかからず、場所もとらず、小さいのに勇敢なこの犬は、ペットとして大変人気があります。

チワワの出身地はメキシコで、意外にも南国の生まれなのです。

実はこの犬は、もともとテチチという名前で知られていました。チワワと呼ばれるようになったのは十九世紀の中ごろです。メキシコに旅行したアメリカ人が、メキシコのチワワ州でこの小さい犬を見つけ、何匹か持ち帰りました。そして、土地の名前からチワワと命名したのです。同じころ、メキシコのお妃様がヨーロッパ旅行のお供にこの犬を連れて行ったため、チワワは世界的に有名になりました。チワワは人間が大好きです。人間との接触が多いほど元気に育つと言われています。

しかし、注意も必要です。この犬の大きさからすると、ベッドやソファは高所ですから、高いところから無造作に飛び降りて骨折してしまうことがあります。また、消化器官が小さい上にカロリーを早く消費するため、血糖値が下がりやすいのもチワワの特徴です。ですから、少量のえさをたびたび与えてやる必要があります。

震えるのはこの犬の特徴です。寒いときだけでなく、興奮したときや心配なとき、不満があるとき、怖がっているときなどに震えます。

小さいけれど大きな存在感を持つチワワ。もしメキシコへ旅行することがあったなら、「こんにチワ、ワたしの国へようこそ」と歓迎してくれるかもしれません。

「チワワって、おでんに入れるとおいしいんだよね。」
「それは、チクワ。」

言葉の森長文作成委員会 (2)



スカートやズボンを買うときは、まずウエストのサイズを確かめます。では、地球のウエスト、つまり円周はどうやって測るのでしょうか。

現代の科学者たちは、メジャーの代わりに人工衛星を使います。北極と南極を通る二つの衛星で、地球を外がわから測るのです。そのようにして算出された数値は、約四万八千キロメートル。大変なウエストサイズです。

しかし、今からおよそ二千年前、すでに地球を測った人がいたのです。エラトステネスは、ギリシャの数学者で天文学者でもありました。彼の時代には人工衛星などないので、地球が丸いことさえ知らない人がたくさんいました。もちろん、地球を測ることのできるほど長い巻尺もありません。エラトステネスが使ったのは、一本の棒きれでした。

エジプトのシエネという都市にいたときのことです。エラトステネスは、一年でいちばん昼間の長い夏至の正午に、太陽が真上に来るとに気づきました。太陽の光が影を作らずに井戸の底まで届いていたからです。しかし、そこから北に八百五十キロメートルほど行ったらそこにあるアレクサンドリアでは、同じ夏至の日の正午に影が見えたのです。そこで、エラトステネスはあることを思いつきます。

彼はまず、アレクサンドリアにまつすぐな棒を立てました。正午にその棒が作る影を観察するためです。影の角度を測ったところ、垂直方向に対して七・二度でした。エラトステネスは地球が丸いことと円周の全体が三百六十度であることを知っていました。三百六十を七・二で割ると五十ですから、棒の角度七・二度は円周の五十分の一になります。ということは、シエネとアレクサンドリアの間の距離も、地球の円周の五十分の一と等しいはずです。そこで二つの町の距離を五十倍し、地球の円周は、約四万キロメートルから

四万六千キロメートルだという結論に達したのです。それは、驚くほど正確な数値でした。

「エラトステネスさん、棒で測るなんて、いつ思いついたんですか。」
「ぼうつとしていたときにね。」

言葉の森長文作成委員会 (Z)



お腹がすいたら花屋さんに入る、という人はいません。「花より団子」のことわざに見られるとおり、花は見るものであり食べるものではない、というのが普通の考え方です。しかし世の中には、目や鼻だけでなく、舌まで楽しませてくれる花が数多くあるのです。

例えば、バラは、美しいだけではなく食用にもなります。花びらの根元は苦味があるので取り除きます。また、花の中心部は食べません。バラの花びらをチーズやナッツ類と合わせてサラダにしたり、刻んだものをスパゲッティにふりかけたりするとおいしいのだそうです。バラを使って、アイスクリームや飲み物に風味を添えることもできます。

また、野菜の花も食用になります。カボチャの花は、すでに十六世紀ごろから南北アメリカで食卓に上っていました。しかし、いくらおいしいからといっても、花を全部食べてしまうとカボチャの実がでなくなってしまうからです。雌花は残して雄花だけを食べるのです。

レモンやオレンジなど柑橘系の花は、飲み物に入れたりデザートに添えたりすると、風味が引き立ちます。春になると、菜の花が八百屋さんの店頭に並びます。フキノトウやイチジクも、食べるところは花の部分です。

「花さん。食べられたときの気持ちはどうですか。」

「はあ、なんというか。」

「やはり、見てもらった方がうれしいでしょう。」

「はあ、なんといっても。」

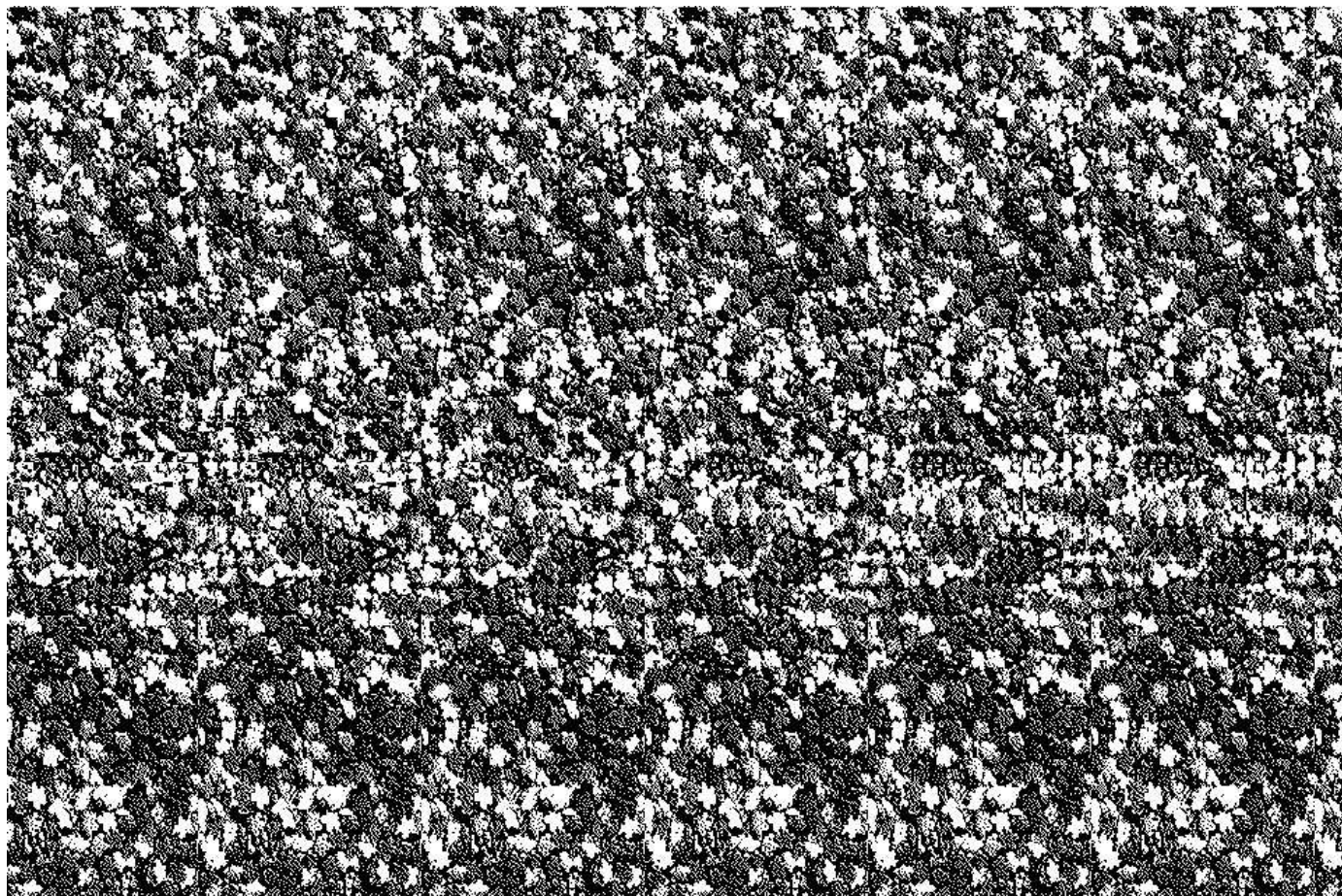
「花さんは、きれいですからね。」

「はあ、なにしろ。」

「もつと驚くようなことを言ってください。」

「ハッ!、なあんてね。」

言葉の森長文作成委員会 (二)



かつお節、みそ、納豆、漬物、パン、チーズ、乳酸菌飲料、ビール、ワイン。これらのおいしさの共通点は、独特の風味です。その共通の風味をもたらしている秘密は、どれもが発酵食品だということにあります。

同じ発酵食品でも、発酵を行う微生物のちがいによって、いくつかのグループに分けることができます。一つ目は、かつお節のように、主にカビの作用によるものです。二つ目は、納豆、乳酸菌飲料、チーズのように、主に細菌の作用によるものです。三つ目は、ビール、ワイン、パンのように、主に酵母の作用によるものです。そして、みそ、しょうゆ、漬物のように、三つの作用が重なり合って生まれるものもあります。

このように、目に見えない微生物は、生育するときに周りの材料を分解して、消化しやすく変化させたり、独特のおいしい風味を与えたりします。ところが、微生物には反対の働きもあって、材料を分解するときに食中毒をひきおこす有害物質を作ったり、悪臭を放つ不快な物質を作ったりすることもあります。これを、私たちは腐敗と表現しています。

地球上のあらゆるところに生育する微生物は、忍者のように目には見えませんが、私たちの暮らしに深く関わってきました。私たちが健康で環境にやさしい生き方をするためにも、微生物との共存がこれからいっそう大切になってくるでしょう。

「カビさんが役に立っているなんて、初めて知りました。」
「そうカビ。」

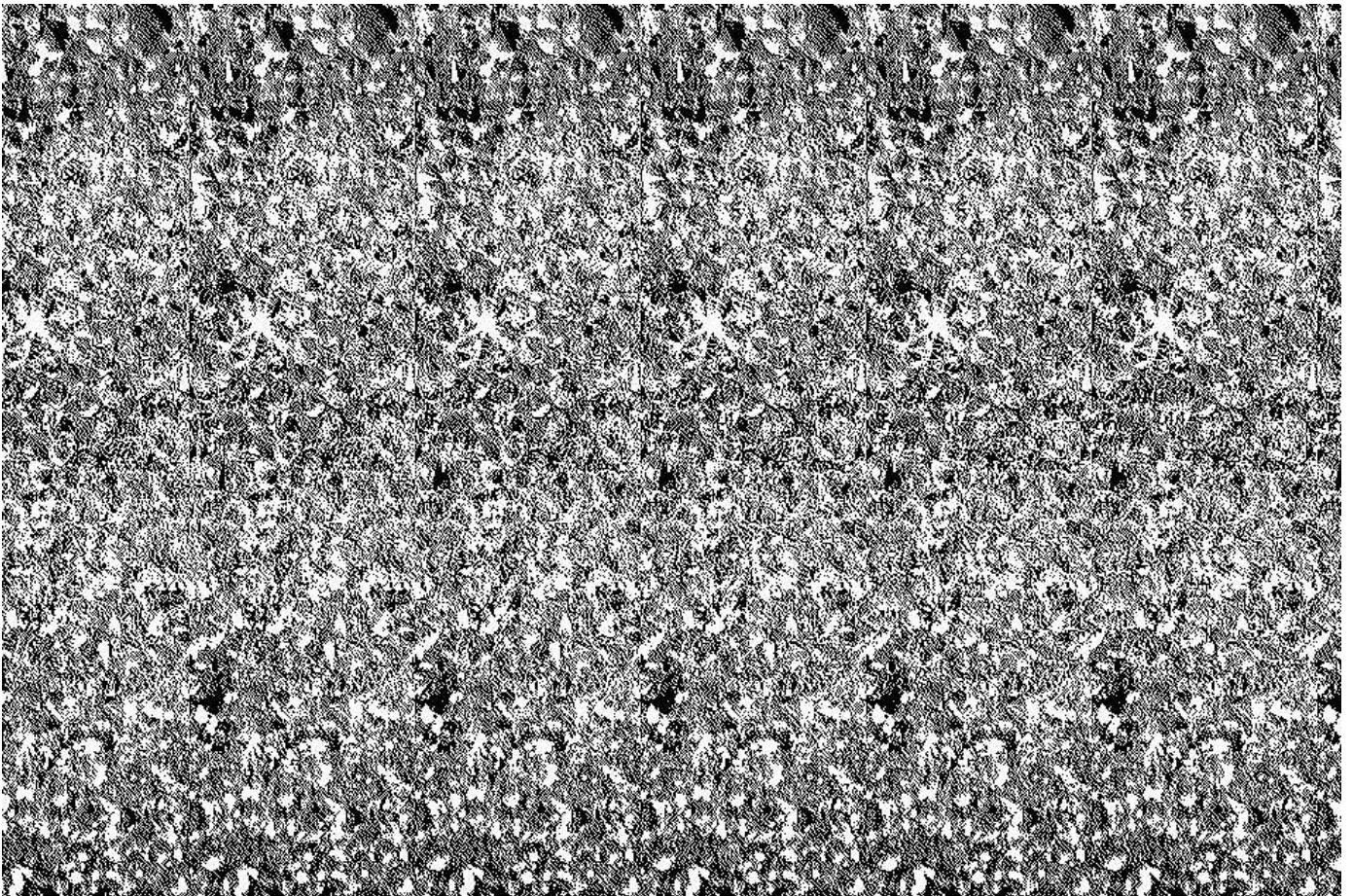
「細菌さんも、がんばっているんですね。」

「最近だけだね。」

「酵母さんも、たまに失敗することがあるんですか。」

「コウボウも筆の誤りと言うぐらいだから。」

言葉の森長文作成委員会（ミ）



人間は昔から、香りに興味を持ち、香りの原料つまり香料を探してきました。

香料には動物性のものと植物性のものとがあります。動物性のものとしては、ジャコウ鹿からとれるムスクが代表的です。植物性の香料として一般的なものは、なんと言っても花々です。例えば、ブルガリアのダマスクローズは、古くから貴重な香料とされてきました。この花のエッセンスは高値で取引され、今でも世界中で愛されています。

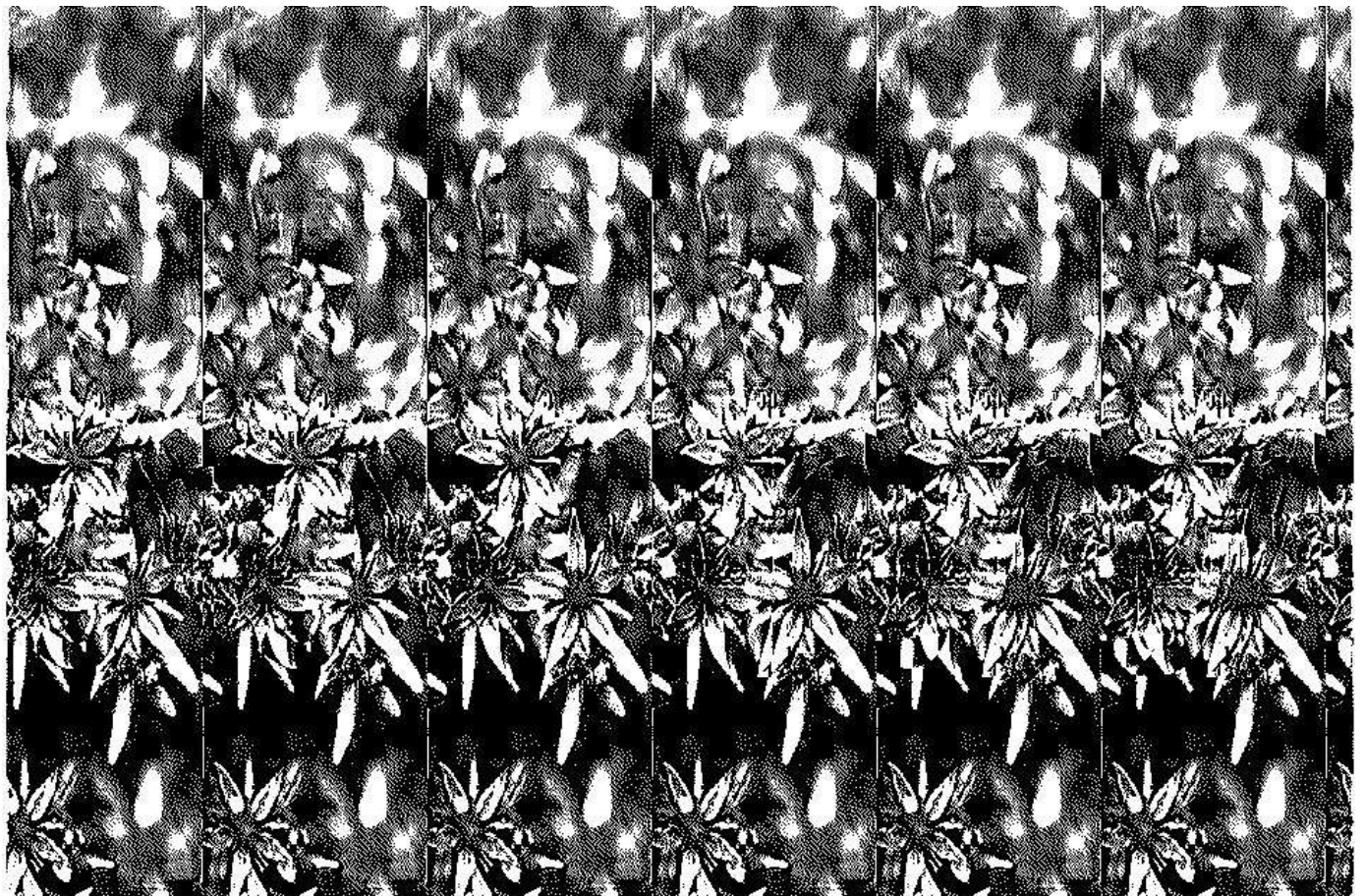
しかし、植物性の香料は花だけではありません。どちらかといえばなじみの薄い、しかし大変広く使われている香料、それがフルーツの一種であるベルガモットです。この果実のエッセンスは、女性用の香水の約三分の一に、また男性用のコロンの約半分に入っています。このフルーツからとれるエッセンスには、いろいろな香りをまとめて一つの香りにするという働きがあり、これがほかの香料にはない特性なのです。

ベルガモットはミカン科の植物で、秋から冬にかけてオレンジほどの大きさの実をつけます。香水になるエッセンスは、この果実の皮からとれます。ベルガモットの主な産地は、イタリア半島のカラブリア地方で、ほかの土地ではほとんど育ちません。というのも、この植物は、暖かくしかも南向きの土地で、強い風の吹かない、湿度の低いところでないとうたないからです。

この植物の起源そのものは深いなぞに包まれています。野生のベルガモットというものはなく、この植物を種から育てることもできません。ベルガモットは、ほかの柑橘系の木々に挿し木をして育てるしかないのです。野生のベルガモットがあれば、香水も、もつとヤセイものになっていたでしょう。

神秘に包まれた香りの世界。だからこそ、より魅力的なのかもしれません。

言葉の森長文作成委員会 (22)



物を食べると、いろいろな味を感じます。たとえば目かくしをしていても、それが知っている味なら、今食べたものが何か、当てることのできるでしょう。また、初めて食べたものでも、「塩辛い」とか「甘酸っぱい」などと、言葉で表すことができます。この味は、いったいどこでどうやって感じているのでしょうか。

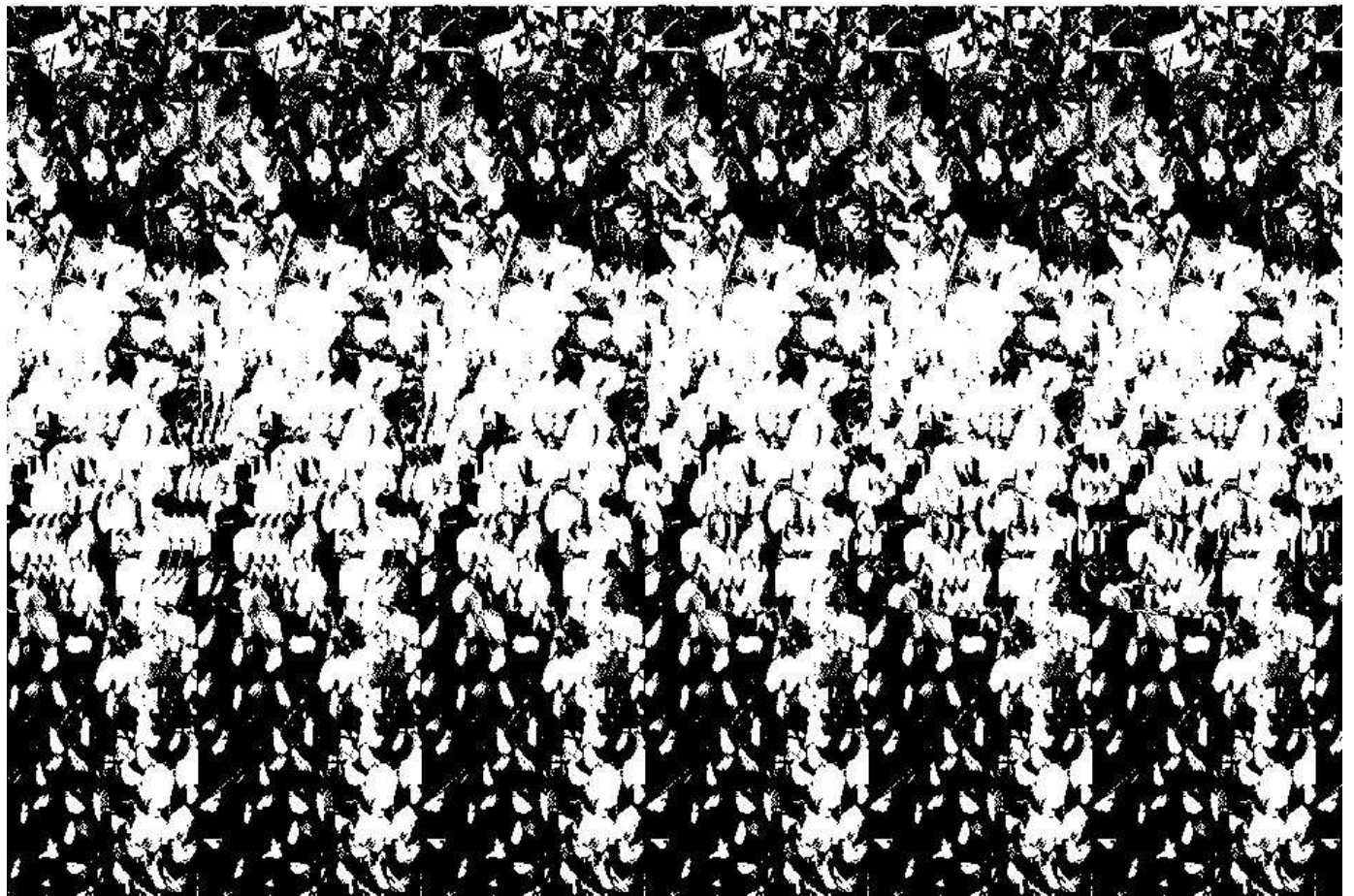
味を感じる体の部分は舌である、というのは、よく知られていることです。その証拠に、味見をするときは、ちよつと舌を出してなめてみます。この舌をよく見てみると、表面はなめらかではなく、ざらざらで、更によく見ると小さなでこぼこやつぶつぶがあります。実は、このつぶつぶが、味蕾と呼ばれるものです。

「蕾」というのが「つぶみ」という漢字であることからわかるように、味蕾は花のつぼみのような形をしています。味蕾は舌の表面だけではなく、上あごの奥やのどにもあります。ですから、舌だけで味を感じているのではないようです。

ところで、動物の中でも肉食動物は、においをかき分ける能力である嗅覚がとも発達している代わりに、味覚はそれほど優れていません。犬やネコも、この肉食動物の仲間です。おおざっぱに苦味、酸味、辛味、甘味などはわかり、苦いものがきらいで甘いものが好きなのは人間と同じです。肉食動物は、生肉をあつという間に食べてしまうため、それほどおいしさを味わう必要がなかったのです。それに対し、いつまでもゆつくりと草を食べている草食動物は、肉食動物よりは味覚が発達していると言われています。

みなさんの家にも、おいしいものしか食べない、グルメな犬やネコがいるかもしれません。これは、おいしいものをいろいろもらってしまつたので、学習して「違いがわかる」ようになってしまつたのです。現代の犬たちが、おしゃれなカフェで犬用のケーキを食べているなんて、犬のご先祖の才オカミには、想像もできなかったにちがいありません。

言葉の森長文作成委員会 (一)



竹は、中に節があつて、まるで空き部屋がひとつひとつ区切られて
いるように、空っぽになつています。これは、竹が木の仲間であら
ず、草の仲間だからです。竹は、身のまわりにたくさんあるの
で、大昔から、人間は、この竹を利用する工夫をしてきました。

まず、あいたところにお米をつめて、蒸す道具にしました。水をつ
めて、水筒にもしました。二つにわけて、お皿にもしました。

まっすぐにきれいに割れることから、細くして、ザルやカゴをあ
たり、スタレを編んだりもしました。また、更に細くして、竹ヒゴと
いうものにもしました。竹ヒゴは、しなやかにまがっても折れること
がないので、模型飛行機などの材料にも使われています。

更に、人間は、竹によつて弓矢や、槍も作りしました。剣道の竹刀に
は、今も竹が使われています。

竹は、遊ぶものにも使われました。穴をあけて、尺八という楽器
にもなりました。長い竹を打ちあわせて、その上をどんで踊るバン
ブーダンスにも使われました。竹馬や竹トンボという子どものおも
ちゃにもなり、竹から生まれた「かぐやひめ」というお話も作られま
した。

エジソンが電球を発明したとき、光を長くもたせるためのフィラ
メントの材料を長い間さがして、とうとう京都の竹の炭がいちばん
いいことを発見しました。

こんなに役に立つ竹は、値段も決してタケーわけではありません。
身の回りに豊富にある材料です。日本人は、昔からこの役に立つ竹
を尊敬してきました。だから、おめでたいことに使われるものは、
松竹梅と言いますし、お正月には門松を立てるのです。また、七夕
の日には笹に願い事を書いた短冊をつるします。子どもの日には、笹
の葉でまいたチマキを食べて、元気に育つことを祈ります。

竹もまさか、こんなに人間に利用されるとは思わなかったでしょ
う。しかし、竹はきつと「竹をわったような性格」ですから、「どん
どん工夫していいよ！」と快く言っているはずですよ。

言葉の森長文作成委員会（一）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

南の国に行く、バナナの木はジャングルがあります。日本でも、南の方に行けば、バナナの木を見ることができます。

バナナは高さが二、三メートルにもなりますから、このように「バナナの木」と言っています。実はバナナは木の仲間ではありません。見上げるほど背が高くても、草の仲間なのです。だから、バナナの木を切っても、木のような年輪は見られません。

バナナは栄養たっぷりで腹持ちもいいので、ごはんのかわりにもなります。南の国では大昔から、一年中身のまわりに実っているバナナをとって食べることができたので、お腹をへらすことがありませんでした。

バナナは実を食べるだけではなく、南の国では、葉っぱも使われています。なにしろ、大きい草ですから、葉も大きくて幅が広いのです。しかも、ほのかによいかおりがします。

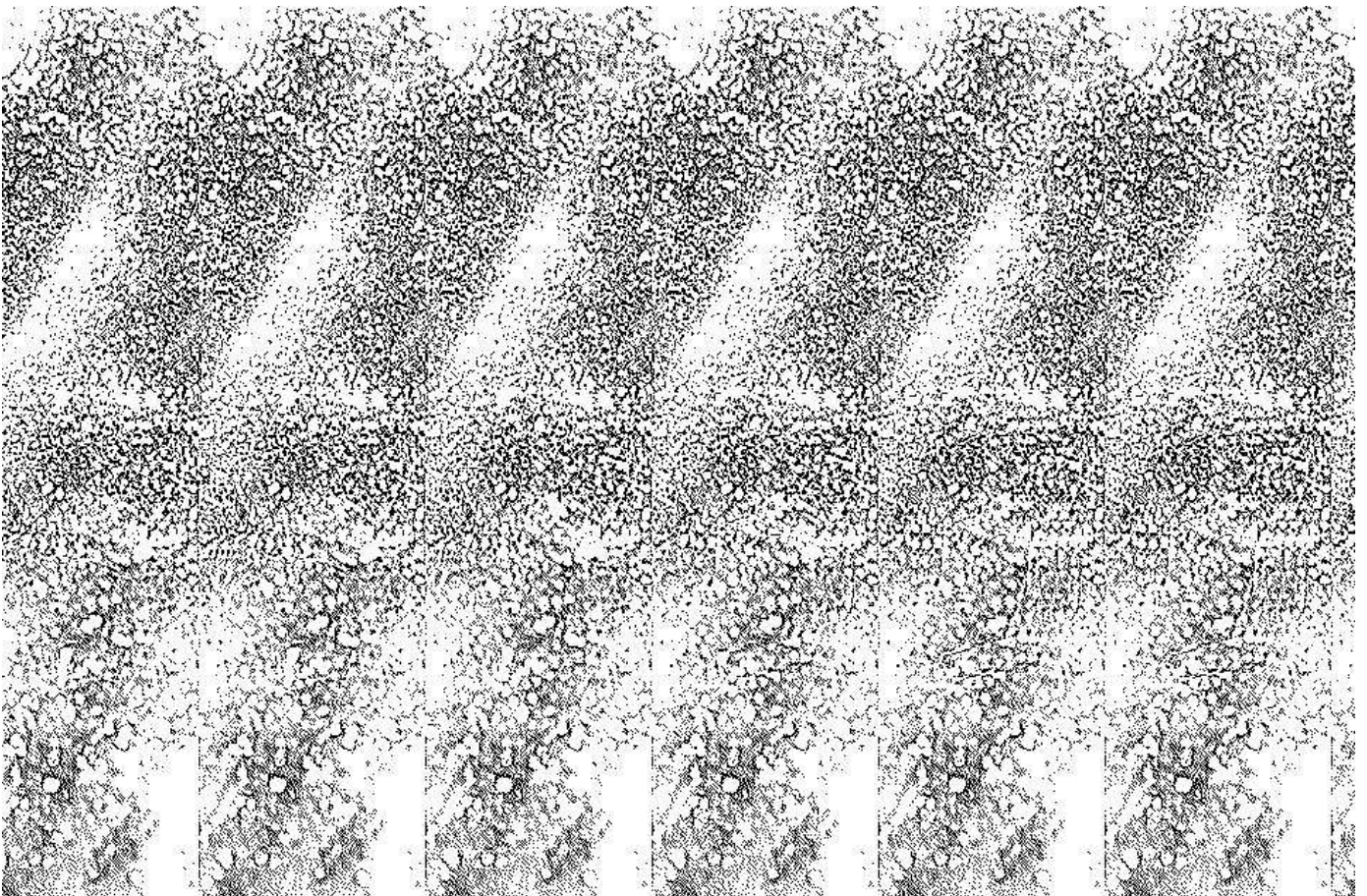
そこで、南の国では、四角く折って器にし、そこに材料を入れて、蒸して食べるおかずを作ったり、ごはんをのせるお皿のかわりにしたりしています。

また、南の国では、紙をつくるよい材料がないので、葉っぱを安い紙のかわりに使っています。きれいに折りたたんで、お供え物の灯籠にしたり、子どものおもちゃとして使ったりもします。細く切ったバナナの葉を編んで、エンゼルフィッシュの形にしたおもちゃは、今でもよく作られています。これは、ちょうど、日本で折り紙の鶴を作るようなものです。バナナの葉のエンゼルフィッシュは、ひもをつけて、モビールにすることもできるので、赤ちゃんのベッドの上にも、よくつるしてあるそうです。

バナナは人を笑わせることもできます。「道に捨てられたバナナの皮で、すべてころぶ人」というのが、昔から、映画やマンガなどで使われています。

こんなに役に立つバナナを見習って、私たちもがんばバナナとい

言葉の森長文作成委員会(一)



シロツメクサは、日本人にとっても愛あいされている草花のひとつです。天気の良い休日になると、シロツメクサが生はえている場所ばしょで、シートを広ひろげてお弁当べんとうを食べる家族連れの姿すがたを見ることが出来ます。シロツメクサの上は、ふんわりしていて座り心地すわごころがよいのです。お弁当のあとには、子どもたちは花を編あんでかわいい冠かんむりにしたり、茎くきをからませて両側りょうがわから引ひつ張はる草相撲くさずもうをしたりして遊ぶことも出来ます。

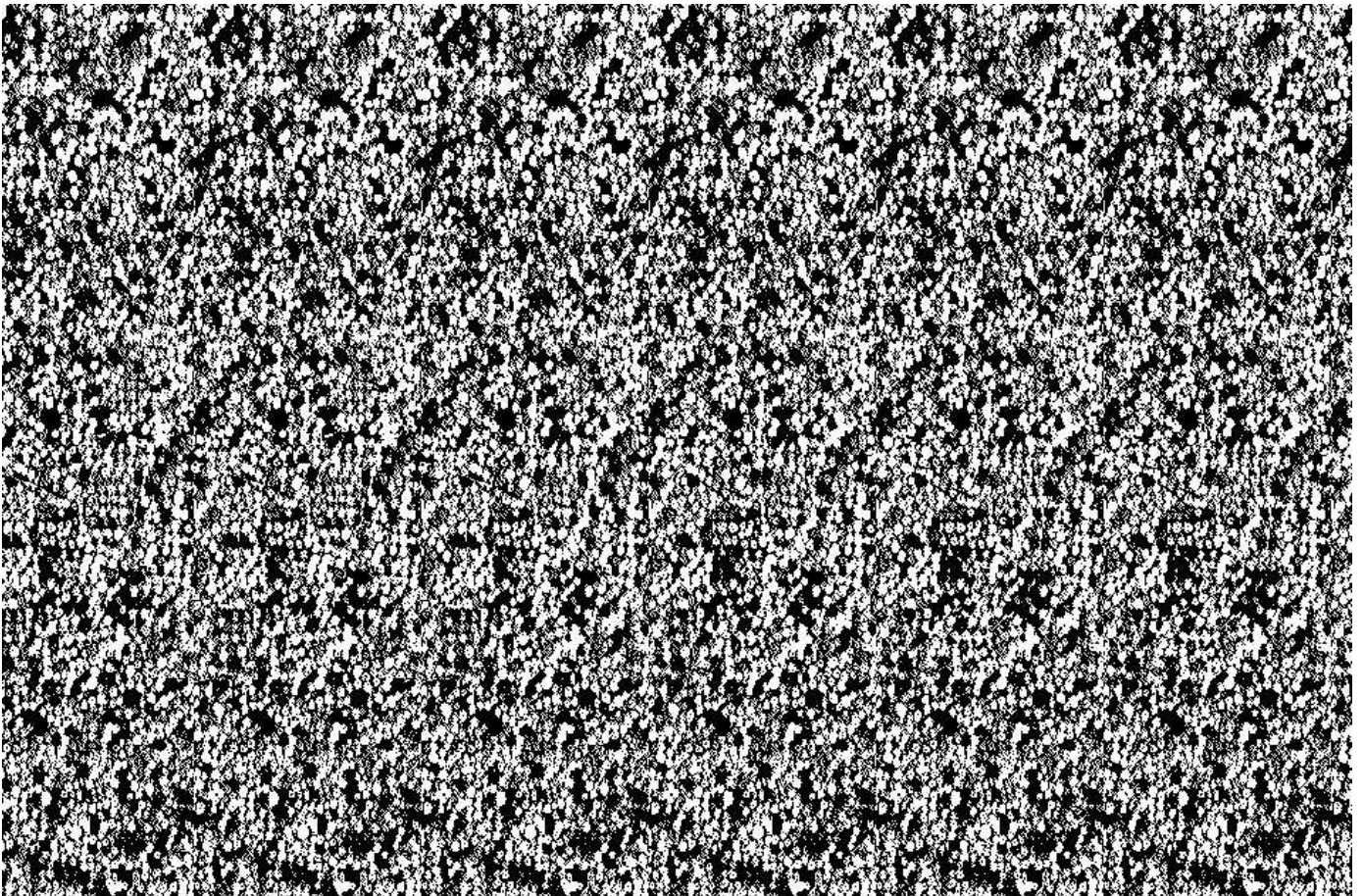
私わたしたちになじみの深いシロツメクサですが、実はもともとは日本ではなく、ヨーロッパが原産げんざんの植物しょくぶつです。江戸時代えどじだい、ヨーロッパのガラス製品せいひんは大変な貴重品きちうひんでした。遠くヨーロッパから船でガラス製品せいひんを運はこんでくるとき、船がゆれてガラスが割われてしまわないように箱の中はこにつめものとして入れられたものが、このシロツメクサなのです。つめものの草だからツメクサという名前なまえがつけました。

シロツメクサは生命力せいめいの強い植物しょくぶつなので、つめものとして日本にやってくる役目やくめを終おえたあと、ゴミとして捨すてられた場所ばしょで再び息を吹き返ふかえし、次第しだいに日本中に広ひろがっていききました。今では北海道から沖縄まで、日本全国で見られるようになっていきます。シロツメクサのように外国が原産げんざんで、何らかの理由りゆうで日本に定着ていちゃくした植物しょくぶつのことを帰化植物きかしょくぶつと言いいます。セイヨウタンポポやヒメジョオンなども帰化植物きかしょくぶつとして有名ゆうめいです。

ところで、このシロツメクサの英語名はクローバーですが、クローバーといえは、四つ葉のクローバーが幸運のシンボルであることはよく知られています。しかし、四つ葉を見つけないかと思おもっても、クローバかり多くてなかなか見つからないことがほとんどです。ところが、世の中よなかには、五つ葉や六つ葉のクローバーもあるのです。今までに見つかった最高記録さいこうきこくはなんと十八枚葉まいば。これは日本で発見はっけんされ、ギネスブックにも載のりました。十八枚葉のクローバーなんて見つけたら、びっくりして白目をむいて倒たおれてしまいそうです。これぞまさにシロ

(ツ) メクサ!

言葉の森長文作成委員会 (Z)



「青菜に塩」ということわざは、ほうれん草などの青い葉に塩をかけると急にしおれてしまうことから、人が急に元気がなくなつてしよんぼりする様子をたとえることわざになりました。

フライパンで青菜を炒めているところを見ると、こぼれんばかりに山盛りになった青菜がさつと小さくなつてしまっています。

さて、この「青菜に塩」の魔法はどうして起こるのでしょうか。

野菜は、人間と同じようにたくさん細胞が集まってできています。ひとつひとつの細胞を包んでいる細胞膜は、水も塩も通すようになっていいます。生きている細胞膜であれば、細胞の中に入った塩をうまく細胞の外に排出する機能を持っています。しかし、死んだ細胞の場合、塩は細胞内にしみ込んだままになります。その一方で、細胞からは水が出ていくので、青菜のカサがへつてしまうのです。この脱水作用をうまく利用したものが漬物で、漬物にされた野菜は、もとの大きさをよるかにしおれて縮んでいます。

私たち人間が健康に生きていくためにも、塩分のバランスは大切です。体の細胞とそれをつつむ液体の塩分濃度は、腎臓の働きで常に一定に保たれています。細胞の内と外の圧力が均衡しているために、細胞は同じ形を保つことができます。塩辛いものを食べたあと、のどが渴いてくるのもそのためです。また、夏の暑い日に、熱射病にならないために水分と塩分をとるように注意するのも同じ理由からです。

「漬物さんには、塩が必要なんですネ。」

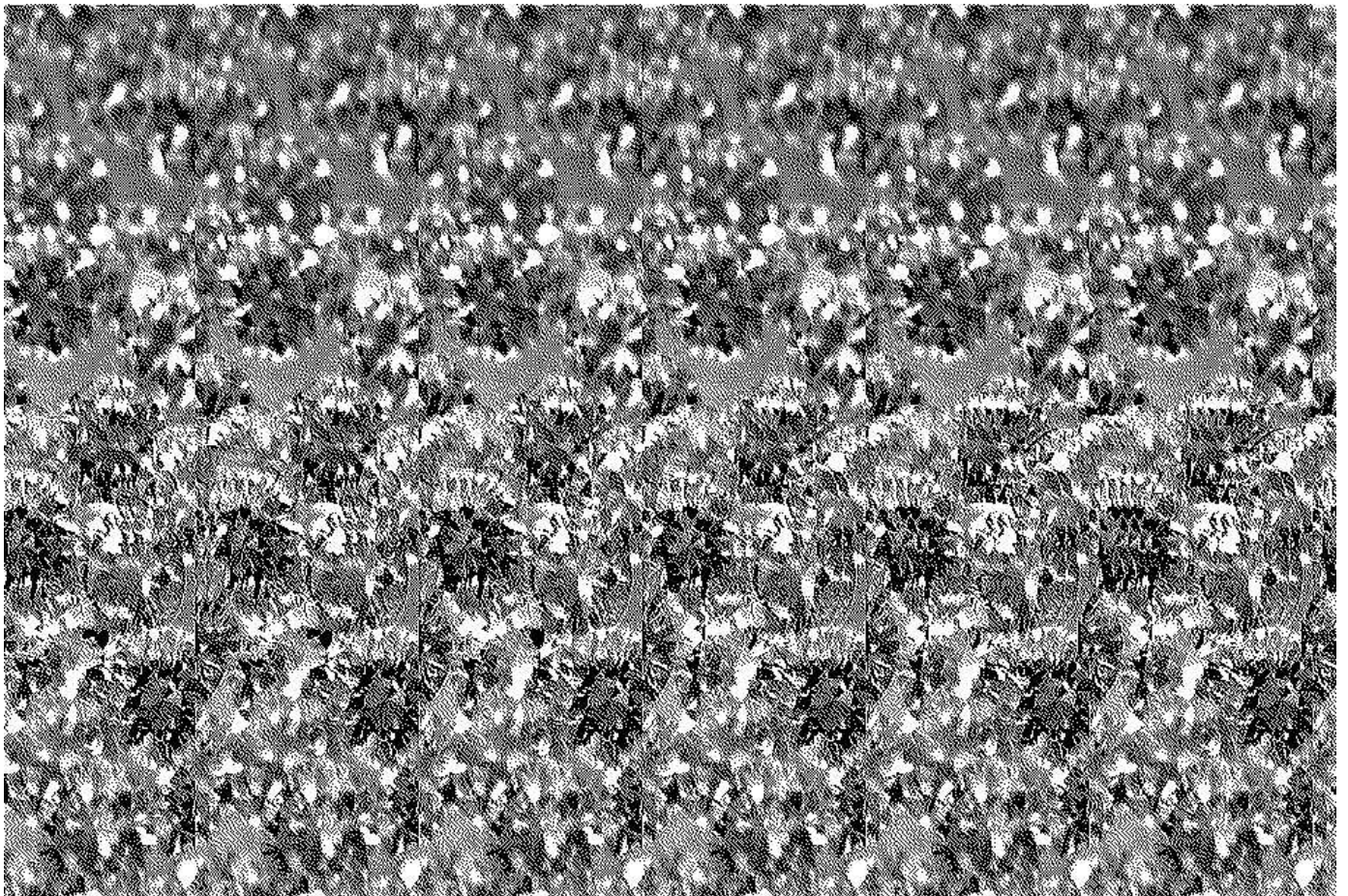
「シオウだよ。」

「ちよつと苦しいですね。」

「エーン。」

（飛んでいっちゃった。）

言葉の森長文作成委員会 (7)



カエルは両生類りようせいりゆうですから、陸上りくじようの生活せいかつにも水中すいじゆうの生活せいかつにも、どちらにも都合つごうのよい体のつくりをしています。

まず、体全体からだを見てみましょう。先のとがった頭あたま、首くびがなく頭あたまがそのまま体からだにつながった形かたちは、水を切きって泳ぐおよのに大変便利たいへんべんりです。

うしろ足は、指ゆびと指ゆびのあいだに薄い膜うすまくがある水かきになっていて、水をいきおいよく蹴けることができます。しかし、水かきが小さく、泳ぐのがへたなカエルもあります。それは、ヒキガエルで、卵たまごをうむときのほかには、ほとんど水に入いりません。また、アマガエルやモリアオガエルは、指先ゆびさきに何なににでも吸すいづく吸盤きゆうばんがついていて、木の枝えだや葉はに登のぼって暮くらします。

カエルのうしろ足の腿ももは、丈夫な筋肉きんにくがはりめぐらされていて、水や地面じめんを強く蹴けることができます。アメリカのカリフォルニアでは、毎年世界中からカエルを集めて、カエルとび大会たいかいがひらかれます。ウシガエルは三段跳さんだんとびのチャンピオンで、これまでに五メートルという記録きらくがのこっています。これは体の長さながの約二十五倍ばいです。人間にんげんは、オリンピックの選手せんしゆでもせいぜい身長しんちようの約十倍ばいですから、大変な跳躍力ちようやくりきです。

カエルは夜行性やこうせいの動物どうぶつです。昼ひるは穴あなの中なかや茂みしげに隠かくれていて、夜よるになると活発かつぱつに動きまわります。その暮くらしに合あうように、昼ひるは瞳ひとみをしばひかり、夜よるは、少しの光ひかりでも物ものが見えるように瞳ひとみを全部開ひらきます。

目の構造こうぞうも変わっています。人間にんげんとは反対はんたいに目の下まぶたが動きまわります。陸りくにいたるとき、下まぶたは下がったままですが、水の中に潜もぐると、さっと下まぶたが上に動うごいて目を覆おおってしまします。下まぶたが透明とうめいですから、ちょうど備えつけの水メガネのようです。

カエルには、このほかにも変わった種類しゆるいがあります。ヒツクリカエル、デングリガエル、イキカエル、ツツカエル、ソリカエル、キガエル、ハキカエル、トツカエル。それでは、そろそろ、モウカエル。

言葉の森長文作成委員会（㊄）



マンボウの大きさは、だいたい畳一枚ほどもあり、体の後ろ半分が切り取られたような形をしているため、まるで頭だけが泳いでいるように見えます。

人気のあるマンボウですが、実は水族館での飼育はたいへん難しいのです。その理由は、えさをうまく食べられないことや、泳ぎが下手で水槽の壁に体をぶつけて弱ってしまうことが多いからです。

魚の仲間は驚くほど卵をたくさん産みます。その中でもナンバールンはマンボウで、メスが一度に産む卵の数は、三億個近くにもなります。

マンボウのお母さんは、卵を産みっぱなしで、保護するということをしません。卵や孵化したマンボウの子どもは、海中に漂っている間に、どんどんほかの生き物に食べられてしまいます。最初のごく小さいうちは、イワシやサンマ、アジなどのえじきになり、少し大きくなったマンボウの子どもは、マグロやカツオ、海鳥、ウミガメなどに襲われてしまいます。

けれども、マンボウの子どもたちも、ただ何の抵抗もせずに食べられていくわけはありません。子どもはマンボウの体には長いとげがたくさんあります。まるでお菓子のコンペイトウのようで、大人のマンボウとは似ても似つかない形です。大きな魚に対しては、この程度のとげはなんの役にも立ちませんが、小型の魚に食べられる確率は小さくなります。このとげは、成長するにつれて短くなり、マンボウ独特の形に変わっていきます。

マンボウの兄弟たちは、大人になるまでにほとんど数が減っていきま。生き残ることができるのは、三億個もあつた卵のうち、たったの三十個ほどです。

「マンボウさん、のんびりしていますね。」
「ヒマンボウ。」
「えさは、吸い込むだけですか。」
「カマンボウ。」
「いつも海に浮いているだけですね。」
「シズマンボウ。」
「もつと別のセリフ、ないですか。」
「スマンボウ。」

言葉の森長文作成委員会（と）



読解問題 7月4週分

問1 読解マラソン 集 1 番「世界一小さい犬」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 チワワは、品種改良の結果、コンパクトな犬になった 2 アメリカ人がチワワをヨーロッパ旅行のお供に連れていったため、チワワは有名になった 3 チワワは、天然の小型犬だ 4 チワワは、犬どうしの接触が多いほど元気に育つ

問2 読解マラソン 集 1 番「世界一小さい犬」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 チワワがふるえるのは、寒いときや、えさを食べているときである 2 チワワは、高いところからジャンプするのが得意だ 3 チワワには、すぐにふるえるという特徴がある 4 チワワは、消化器官が弱いので、一度にたくさん食べさせる必要がある

問3 読解マラソン 集 2 番「地球を棒で測った人」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 エラトステネスは、棒の長さで計算で地球の周りの長さを測った 2 人工衛星ができるまで、地球の周りの長さは測れなかった 3 昔の人は、地球を測ることのできる長い巻尺を作ろうとしていた 4 エラトステネスは、ギリシアの数学者で歴史学者でもあった

問4 読解マラソン 集 2 番「地球を棒で測った人」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 エラトステネスは、夏至の日に太陽が真上に来るときの井戸の深さを調べた 2 エラトステネスは、シエネとアレクサンドリアの間の距離を知っていた 3 エラトステネスは、コロンブスに教えられるまで地球が丸いことを知らなかった 4 エラトステネスは、立てた棒の影がどのように動くのかを調べた

問5 読解マラソン 集 3 番「食べられる花」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 「花より団子」とは、花よりも団子の方がおいしいという意味である 2 バラの花びらには、とげがあることもある 3 バラの花びらを凍らせると、アイスクリームになる 4 バラの花をスパゲティにふりかけて食べることもできる

問6 読解マラソン 集 3 番「食べられる花」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 バラの花は食用になるが、野菜の花は食用にならない 2 カボチャは、雌花よりも雄花の方がおいしい 3 菜の花を飲み物に入れると、風味が引き立つ 4 フキノトウの食べるところは、花の部分である

問7 読解マラソン 集 4 番「微生物の働き」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 微生物の助けを借りない発酵食品もある 2 かつお節と納豆は、主にカビの作用でできる 3 かつお節とチーズとパンを作る微生物は同じ種類で、作り方だけが違う 4 みそやしょうゆや漬物も、微生物の助けによって作られる

問8 読解マラソン 集 4 番「微生物の働き」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 人間にとって、よい微生物とよくない微生物がいる 2 微生物は、どれも人間の味方である 3 物を腐らせる細菌は、微生物とは言わない 4 食中毒を引き起こす微生物は、細菌とは言わずばい菌と言う

読解問題 8月4週分

問1 読解マラソン 集 5 番「香水になるフルーツ」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 香料には、植物性のもはあるが、動物性ものはない。 2 動物性の香料で代表的なものは、ジャコウ鹿からとれる 3 ブルガリアのダマスクローズは、価格が安いので、世界中で愛されている 4 植物性の香料の中には、フルーツは含まれない

問2 読解マラソン 集 5 番「香水になるフルーツ」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 ベルガモットからとれるエッセンスには、いろいろな香りをまとめる働きがある 2 ベルガモットは、どこでも栽培しやすく、主な産地はイタリアのカラブリア地方だ 3 現在は、野生のベルガモットよりも、野生から改良したものがよく栽培されている 4 ベルガモットは、種から育てるのが難しいと言われている

問3 読解マラソン 集 6 番「味を感じる仕組み」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 目かくしをしたら、知っている味でも、食べたものを当てることができない 2 舌の表面にある小さなでこぼこやつぶつの中にも、味を感じる細胞がある 3 食べ物は、口の中で気体になって、味を感じる細胞に届く 4 味蕾は、花のつぼみのような形をしていて、舌の表面だけにある

問4 読解マラソン 集 6 番「味を感じる仕組み」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 肉食動物は、においをかぎ分ける嗅覚と味を感じる味覚がとても発達している 2 肉食動物は、苦いものと甘いもの好きだ 3 肉食動物は、おいしさを味わう必要があまりなかった 4 草食動物は、いつもいそいで草を食べている

問5 読解マラソン 集 7 番「竹と人間の工夫」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 竹は、木の仲間であって、草の仲間ではない 2 昔の人は、竹を二つにわって水筒にした 3 竹ひごは細いので、まげるとすぐに折れる 4 剣道の竹刀には、今でも竹が使われている

問6 読解マラソン 集 7 番「竹と人間の工夫」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 長い竹で人をたたき合うバンブーダンスという遊びがある 2 エジソンは、電球のコードの材料として京都の竹がいちばんいいと発見した 3 竹から作られた竹酢液は、お風呂に入れると体があたたまると 4 日本人は、竹を尊敬し、竹を利用してきた

問7 読解マラソン 集 8 番「バナナは大きい草」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 日本では、温室の中でなければバナナの木は見ることはできない 2 バナナは、木の仲間ではなく草の仲間である 3 バナナの木を切ると、うすく年輪が見られる 4 バナナは消化がよいので、ごはんのかわりにはならない

問8 読解マラソン 集 8 番「バナナは大きい草」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 バナナの葉は、細くて幅が狭い 2 南の国では、バナナの葉をお皿がわりに使うことがある 3 南の国では、バナナの葉は高級な紙として使われている 4 南の国では、バナナの葉で作った鶴をモビールにしている

読解問題 9月4週分

問1 読解マラソン 集 9 番「詰め物だったシロツメクサ」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 シロツメクサは、もともと日本にあった 2 シロツメクサは、アフリカの原産である 3 江戸時代、ヨーロッパにガラスを運ぶときにシロツメクサを使った 4 シロツメクサは、ガラスがわれないようにするためのつめものだった

問2 読解マラソン 集 9 番「詰め物だったシロツメクサ」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 日本にきたシロツメクサは、大事に育てられた 2 シロツメクサは、日本中で生えている 3 シロツメクサのような植物は、帰化植物とは呼ばない 4 シロツメクサは、クローバーよりも花が白い

問3 読解マラソン 集 10 番「塩の働き」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 「青菜に塩」ということわざは、元気がなくなった様子を表している 2 青菜に塩を与えると、元気になる 3 フライパンで青菜をいためると量が増える 4 青菜の葉の色は、緑ではなく青である

問4 読解マラソン 集 10 番「塩の働き」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 野菜は、人間とは違ってたくさんの細胞でできている 2 ひとつひとつの細胞は、水は通すが塩は通さない 3 生きている細胞は、塩をうまく排出できる 4 死んだ細胞からは塩が出ていくのでカサが減る

問5 読解マラソン 集 11 番「カエルの秘密」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 カエルは、水中の生活につごうのよい体なので、陸上は苦手である 2 カエルは、泳ぐのにつごうのよい体をしている 3 うしろ足には、指のかわりに水かきという膜がある 4 どのカエルも、泳ぐのはじょうずである

問6 読解マラソン 集 11 番「カエルの秘密」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 アマガエルは、指先につまがあるのので、木に登ることができる 2 カエルの三段跳びチャンピオンは、人間のチャンピオンよりも速くまで跳べる 3 カエルは、夜行性の動物なので、夜が苦手である 4 人間は上まぶたが動くが、カエルは下まぶたが動く

問7 読解マラソン 集 12 番「のんびり泳ぐマンボウ」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 マンボウは大きいので、漁師たちから恐れられている 2 マンボウは、頭だけで泳いでいる 3 マンボウの飼育は、簡単ではない 4 マンボウは泳ぎがうまいので、えさをうまく食べられない

問8 読解マラソン 集 12 番「のんびり泳ぐマンボウ」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 いずれ世界中の海はマンボウだらけになると言われている 2 マンボウのお母さんは、子育てがうまい 3 子供のマンボウには、毒のあるとげがある 4 大人のマンボウと子供のマンボウは、全然似ていない